

■信時潔 作曲家。日本人最高の(洋楽の)歌曲作家とされる。東京音楽学校に作曲科創設。自らの曲が戦争に利用され後悔。

のぶとききよし

国民之友始・1887＝ 大阪で、元津山藩士で明治初期の日朝外交を担当した北教会牧師吉岡弘毅の三男に生まれる。母はひとり。

初の対等条約1888＝ 1歳：父の高知教会への転任に伴い、高知の唐人町に移る。

帝国憲法発布1889＝ 2歳：
幼少より賛美歌に親しみ、

大本教・・・1892＝ 5歳：父が室町教会へ赴任し、京都に移住。父はミッションの補助受け幼稚園建設、母は設立者として尽力。

日清戦争始・1894＝ 7歳：京都市立滋野尋常小学校に入学。

白馬会・・・1896＝ 9歳：

八幡製鉄始・1897＝10歳：父が再び大阪北教会に赴任となり、大阪へ移り、市立中之島尋常小学校へ転校。

子規句歌革新1898＝11歳：大阪市立盈進高等小学校へ進学。大阪北教会四長老の一人信時義政の養子となる。

Bushidou・・・1899＝12歳：大阪府立師範学校附属小学校高等科へ転入学。

田中正造直訴1901＝14歳：大阪府立市岡中学校に入学。同級生にのちの画家小出楯重や国立がんセンター初代総長田宮猛雄がいた。

日露戦争終・1905＝18歳：中学校を終了。上京して東京音楽学校予科に入学。

満鉄発足・・・1906＝19歳：東京府滝野川に住み、本器楽部に入学しチェロを専攻。アウグスト＝ユンケルに指揮法を、ハインリッヒ＝ヴェルクマイスターにチェロと作曲を、ルドルフ＝ロイテルに対位法と和声を学ぶ。

韓国反日暴動1907＝20歳：この頃から画家熊谷守一の親交が始まる。

伊藤博文暗殺1909＝22歳：学友会演奏会でチェロを独奏。

韓国併合・・・1910＝23歳：本科を卒業し、研究科器楽部に進む。学友会演奏会で学友3人とシューマンのピアノ四重奏曲を演奏。

明治天皇没・1912＝25歳：研究科器楽部を修了し、作曲部に進む。

第一次大戦始1914＝27歳：

21ヶ条要求・1915＝28歳：作曲部を修了し、東京音楽学校助教となる。

民本主義・・・1916＝29歳：東京音楽学校皇后行啓演奏会でアントン＝ルビンシテイン作曲「チェロソナタ第1番」を演奏。

ベルリン条約・1919＝32歳：養父が死去し家督相続。

大暴落・・・1920＝33歳：養父の死で延期となっていた文部省在外研究員として、ベルリンに向かい、ゲオルク＝シューマンに作曲を、ヴィリー＝デッケルトにチェロを学び、現地演奏家の合奏に加わって室内楽も研究。

原敬首相暗殺1921＝34歳：

水平社結成・1922＝35歳：ベルリンを出発し、フランス・イギリス・スイス・イタリアを回って帰国。

関東大震災・1923＝36歳：巣鴨に居住。東京音楽学校後輩の白坂ミイと結婚。長男太郎が誕生。*東京音楽学校教授となる。

護憲三派圧勝1924＝37歳：国分寺村に転居。合唱曲、歌曲、器楽曲を数多く発表し始め、教科書の編集にも多数携わって行く。

治安維持法・1925＝38歳：共訳で「楽式論」「管絃楽器論」を出版。「全訳コールユープンゲン」を刊行。

日本時代始・1926＝39歳：長女はる誕生。「標準楽典教科書」、与謝野晶子詩の歌曲集「小曲五章」を刊行。

金融恐慌・・・1927＝40歳：共訳「音楽通論」と共編「セロ教本第1巻」を刊行。

共産党事件・1928＝41歳：次男次郎が誕生。共編「ヴィオロン＝セロ名曲集第1巻」を刊行。

世界恐慌・・・1929＝42歳：共編「セロ教本第2巻」を刊行。東京音楽学校唱歌編纂掛編纂員となる。

海軍軍縮条約1930＝43歳：合唱曲「いろはうた」。東京音楽学校管絃楽部員から、管絃楽部長に。

満州事変・・・1931＝44歳：この間、学者的蘊蓄と手堅い作風で、すでに多くの門下生を抱え、

五一五事件・1932＝45歳：実父が死去。三男三郎が誕生。編纂に携わった教科書「新訂尋常小学唱歌」が刊行。*東京音楽学校本科の作曲科創設に尽力し、新設されると、自身は教授を辞して講師となり、作曲に専念。{音楽コンクール}作曲部門の審査員を以後15年間務める。

芥川直木賞始1935＝48歳：編纂に携わった教科書「新訂高等小学唱歌」が刊行。

二二六事件・1936＝49歳：共編「日本学生歌」を刊行。歌曲集「沙羅」、ピアノ組曲「木の葉集」。

日中戦争始・1937＝50歳：合唱組曲「紀の国の歌」。日本放送協会の委嘱で「海ゆかば」を作曲し、初放送。以降、国民歌謡多数発表。

大政翼賛会・1940＝53歳：「(旧)山口県民歌」。紀元二千六百年奉祝芸能祭制定の演奏会で、交声曲「海道東征」全曲初演し、

日米開戦・・・1941＝54歳：東北民謡試聴団に参加。ビクターより「海道東征」レコード発売、代表曲となる。

・・・1942＝55歳：長男太郎が死去。満州の音楽事情を視察。芸術院会員となる。

創価学会検挙1943＝56歳：中日文化協会全国文化代表大会(南京)に派遣された文化使節に楽壇代表として参加。朝日賞受賞。{木下保独唱会・信時潔の夕}で、「鶯の卵」より「沙羅」「小曲五章」「小倉百人一首より」が演奏される。

敗戦・・・1945＝58歳：*敗戦後、「海ゆかば」が軍国主義に利用され、学徒出陣の際に用いられたことを恥じて、作曲数は激減、

長女はるが熊谷守一の長男に嫁いで姻戚となる。

新憲法施行・1947＝60歳：新憲法施行記念国民歌「われらの日本」(詩:土岐善麿)。翌年にかけて、歌曲集「古歌二十五首」。

極東裁判決・1948＝61歳：生成会の同人となり、雑誌{心}に晩年まで、作曲家その他の人物について寄稿。{音楽コンクール}顧問。

朝鮮戦争始・1950＝63歳：「信時潔独唱曲集」「信時潔合唱曲集」相次ぎ刊行。

独立回復・・・1951＝64歳：胃潰瘍で東大分院に一時入院。平和条約発効記念式典典歌「日本のあさあけ」(詩:斎藤茂吉)。自ら編纂の「信時潔合唱曲集」を刊行。

メデー事件・1952＝65歳：教科書「私たちの音楽」を監修。

自衛隊発足・1954＝67歳：*東京芸術大学音楽学部講師を退任。

55年体制始・1955＝68歳：教科書「小学校音楽」を監修。

なべ底不況・1957＝70歳：雑誌{心}に自伝的記事「問はれるままに」を掲載。

インクノアム・1958＝71歳：「信時潔ピアノ曲集」刊行。

美智子妃・・・1959＝72歳：

安保闘争・・・1960＝73歳：

全国総合計画1962＝75歳：雑誌{心}に「音楽思い出話・40年前のベルリン楽壇」を掲載。「海道東征」が戦後初の再演。

TV宇宙中継始1963＝76歳：「(新)山口県民の歌」「(旧)山口市民の歌」文化功労者として顕彰される。

東京カンピョク1964＝77歳：勲三等旭日中綬章。

大学紛争始・1965＝78歳：歌曲・合唱曲集「女人和歌連曲」を遺作に、オペラ「古事記」は未完のまま、心筋硬塞で、没した。

芸術音楽のみならず文部省唱歌「電車ごっこ」等作曲。戦前戦後を通じて学校の音楽教科書の編纂や監修にも力を注いだ。校歌・社歌・団体歌等の作曲も数多く手がけ、生涯で少なくとも1000曲以上を数える。

インターネット「信時潔研究ガイド(信時裕子編年譜)」ほか、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「音楽界戦後50年の歩み」、